

第2回 平成24年5月16日(水)

第2回の一流塾は、講師に三枝 匡氏(株ミスミグループ本社 代表取締役会長・CEO)、岡村 正氏(株東芝 相談役)をお迎えしました。冒頭、塾長の一柳は、産経新聞に本日掲載された一流塾に関する新聞記事について触れ、皆さんは当事者として自ら体験して塾の価値を判断し、新聞の報道内容が正しいものなのかどうか問題意識をもって自分なりに考えて欲しいと述べました。



講師 三枝 匡氏



講師 岡村 正氏

三枝氏は、『日本の経営リーダーに求められるもの - 日本企業の強さ再構築をめざして - 』と題し、企業再生のスペシャリストとして活躍されたご自身の経験に基づき、1960年代から1990年代の日米企業の凋落・復興の原因について経営論を切り口に鋭い分析をご披露頂きました。そして、日本企業が強さを取り戻すためには、単純に米国企業の後追いをするのではなく、日本的経営の強み、弱みをきちんと理解し、強いフレームワークを発信することができる経営力をもった強い経営リーダーが必要である。かつて日本企業が強みにしていたビジネスモデルを活かして成長している外国企業を例に挙げ日本企業が遅れをとっている現状を悔しく思わないのか、経営者はもっと経営リテラシーを磨かなければならない、と檄を飛ばされました。企業再生の現場で多くの修羅場を経験してきた三枝氏の迫力ある語り口に塾生は熱心に聞き入り、「非常に危機感のある迫りに満ちた講義に感動した」「プロの経営者としての心構えについてお話を頂き大変刺激を受けた」「自分の勉強不足を痛感し、人材育成の重要性を改めて認識した」等の声がありました。

岡村氏は、『21世紀の経営変革』と題し、株東芝の社長に就任した直後に襲ったITバブル崩壊を乗り越え東芝グループを立て直したご経験を踏まえ、日本企業の課題や経営変革を成功させる要因について具体的な事例を挙げながら持論をご披露頂きました。講義の中で岡村氏は、21世紀は「グローバル化」「デジタル化・ネットワーク化」「ニーズの多様化」という点で20世紀とは異なり、時代の大きな変化に対応し経営変革を成功させていくためには、真のコミュニケーションを図り危機感を共有する必要があると述べられるとともに、会社の使命や将来に進むべき方向を「未来カタログ」にまとめ、「個が光るイノベーション」「東芝のDNAとは何か」を社員全員に浸透させたエピソードもるべく社員全員に配布したDVDについてもご披露されました。また最後に、中小企業経営者が多数参加していたことからその課題についても言及頂きました。また最後に、日本商工会議所 会頭も務められている見地から、中小企業政策の課題についてもお話を頂きました。講義後も活発な質疑が行われ、塾生からは「相手を動かしてこそ真のコミュニケーションであるという言葉が非常に印象に残った」、「貴重なDVDの映像も含め、東芝の社員であったとしてもめぐりあるかどうかの密度でお話を聞いて感動した」等の声が寄せられました。



岡村氏 乾杯のご挨拶



特別ゲスト 熊坂 隆光 氏



講義後の懇親会では、冒頭、岡村氏に乾杯のご挨拶を頂き、大学時代のラグビー部で得た教訓についてご披露頂きました。また、特別ゲストの熊坂隆光氏(産経新聞社 代表取締役社長)からは「メディアの舞台裏」と題し卓話を頂きました。熊坂氏はユーモアも交えながら、メディアは本当のことを伝えているか?等メディアが果たす使命の重要性について述べ

られました。卓話後の質疑応答も活発に行われ、ここだけの話で会場は盛り上がりました。

懇親会後に塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、夏合宿での塾生の課題ともなるウィットに富んだスピーチのお手本が塾長から披露されたほか、TV 番組の収録での秘話など、日中の講義ではなかなか聞けないやわらかい話等と一緒に大いに盛り上がり、袴を脱いだ塾長と塾生の交流が深夜近くまで続きました。